



## 新春 対談

このまちでいつまでも  
暮らしていくために

「医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅や地域で安心して暮らし続けたい」。今回の特集では、多くの方が望むこの願いの実現に向け、市内の在宅医療・介護の現場で活躍する高橋宏太郎さん、吉田麗美さん、仲川真悟さんをお招きし、森田市長がお話を伺いました。

**森田市長(以下、市長)** 医療・福祉に係る仕事はこの3年間、新型コロナウイルス感染症の影響もあって大変だったと思います。そんな中で一生懸命に働いている皆さんに感謝し、敬意を表します。対談では皆さんの仕事や東松山市の将来についての思いなどをお聞きしたいと思います。

### 仕事を選んだきっかけ

**市長** 今の仕事を選んだきっかけを聞かせてください。  
**高橋宏太郎(以下、高橋)** 中学生の時に授業の中で自分の将来について考える時間があり、自分が年齢を重ねた時に少しでも楽しく過ごしたいと考えました。高齢者にも楽しく生活してほしい、それを自分がお手伝いできたらきっとやりがいを持って仕事ができるだろうと思ったのがきっかけです。  
**市長** 中学生の時の思いがなかったのは

指しました。  
**市長** 仲川さんも実体験がきっかけなのですね。私も入院した際に理学療法士のリハビリを受けましたが、身体が少しずつ回復していき、リハビリの大切さを経験しました。  
**仕事の内容**  
**市長** 現在、どのような仕事をされていますか。  
**吉田** 主な仕事は総合相談です。高齢者ご本人やご家族などから、日常生活での不安、健康相談など様々な相談を受けています。また、医療や介護、福祉に携わる事業所、民生委員からの相談もあり、相談内容は多岐にわたります。問題を解決するのに時間がかかることもあり、相談者の悩みを取り除けるよう支援をしています。  
**市長** 様々な相談があるようなので幅広い知識が必要になり、日々勉強ですね。  
**仲川** 私は訪問リハビリ専門の理学療法士です。基本的には利用者の自宅に訪問して、リハビリを支援することが主な仕事です。身体の機能を良くすることはもちろんですが、福祉用具や家に手すりをつけるといった生活環境のアドバイスや調整もしています。また、一緒に生活をしている家族の介護疲れや健康面にも気を配り、必要があれば血圧測定など家族の健康チェックもしています。  
**市長** 在宅で介護サービスを受ける人は

増えているのですか。  
**仲川** はい。最近では病院から早めに在宅へ戻られる人もいるため、増加傾向にあると思います。リハビリが必要な状態で帰ってくる人もいるので、自宅でも継続してリハビリを続けることが大事です。  
**市長** 病院で入院中にリハビリをして自宅に戻れた人が、家に帰って生活しているうちに、歩けなくなってしまうという話を聞いたことがあります。在宅でのリハビリも本当に大切ですね。  
**仲川** 私はもともと入院している患者の担当でしたが、在宅に切り替えた途端にすぐにまた入院してしまう人もいました。在宅でのリハビリの大切さを強く実感したことから、訪問専属の理学療法士になることを決意しました。  
**市長** これからリハビリの需要は増えるかと思いますが、マンパワーは足りていますか。  
**仲川** 足りておらず、日々忙しいのが現状です。  
**高橋** 私は介護を必要としている人の相談に応じて、心身の状況にあった介護サービスを受けられるようにケアプランを作成しています。より良いサービスが受けられるように様々な自治体や事業所、病院などと連絡調整を行っています。仕事をしていて利用者から支

## 対談者プロフィール



東松山医師会訪問看護ステーション  
理学療法士 仲川 真悟さん

2005年埼玉医科大学短期大学理学療法学科を卒業、理学療法士として東松山医師会病院へ入職。2012年埼玉医科大学大学院を卒業し修士号を取得。2013年から訪問リハビリ専属へと変更となり、現在は東松山医師会訪問看護ステーションにて勤務。比企地区在宅医療介護連携推進協議会の委員も務めている。



わかばの丘地域包括支援センター  
保健師 吉田 麗美さん

埼玉県立大学を卒業後、地元である埼玉県内で保健師として勤務。2021年10月からはわかばの丘地域包括支援センターで、高齢者の方やそのご家族からの医療・介護・福祉に関する相談支援を行っている。また、介護予防担当として地域のイベントやお祭り等の行事への参加、認知症地域支援推進員として認知症の方が住みやすい街づくりのための取組をしている。



居宅介護支援事業所「シャローム」  
ケアマネジャー 高橋 宏太郎さん

介護の専門学校を卒業後、川越市の特別養護老人ホームで現場の介護スタッフとして8年間勤務する。施設でのターミナルケア(看取りケア)を学び、その経験を在宅で生活している方々にも生かしたいと思い、ケアマネジャーの資格を取得し、2017年4月からシャローム病院内にある居宅介護支援事業所「シャローム」でケアマネジャーとして勤務している。





えや元気をもらうことがあります。月に1回、訪問しますが、それを楽しみにしてくれたり、こちらを気遣うような言葉をかけてくれたりします。利用者は何かしらの問題を抱えている人が多いですが、それを乗り越えた時に利用者や周りの支えている人との間にきずなが生まれよう的な気がしています。

**市長** 利用者は今まで家族や地域のために頑張ってきた人たちですから、しっかりと支えてあげたいですね。

### 仕事をする上で心掛けていること

**市長** 仕事をする上で心掛けていることはありませんか。

**高橋** 利用者と家族が最善の選択ができるように支援することを心掛けています。同じような病気や家族構成でも家庭によっては状況が違うので、無理に型にはめようとせずにはっきり話を聞いて、その家庭に合った支援をしたいと思っています。

**市長** 介護を必要としている利用者の状況はそれぞれ違うので状況に応じた支援が必要ですね。

**仲川** 利用者の話をしっかりと聞いて、相手の気持ち、思いをできるだけくみ取りと心掛けています。入院中は医学的な管理が先行してしまい、自由が利かないことが多いかと思うのですが、在宅に戻ると良い意味でわがままが言える環境なので、専門的なアドバイスを押しかけられないようにして、利用者の気持ちをくみながら支援をしていきたいです。

**市長** そのような対応をしてみようと、気持ちも和らいでリハビリも進むと思います。

**吉田** 高齢者だけではなく、医療、介護の事業者など多くの人と関わる機会があるので、全ての出会いが縁だと思い、相手に寄り添う気持ちを忘れないことを心掛けています。相手との信頼関係を築くことで、何でも相談しやすい人になれると思うので、そのために相手に寄り添う心を忘れずに仕事をしていきたいです。

**市長** 相手に寄り添うことはとても大切



### 東松山市の取組で注目、期待していること

**市長** 東松山市の取組で注目していることと期待していることはありますか。

**高橋** いきいきパス・ポイント事業は高齢者のやる気や活気の向上はもちろん、地域通貨ぼたん圓と交換でき、経済が回ることもつながるのでとても良い制度だと思います。

もう少し充実してほしいことは通院に對しての支援です。特に車椅子を利用している人はデマンドタクシーの利用も難しいため、地域で支えられればいいと思います。

利用者から言われたこととしては、マイナンバーカードの申請など、パソコンやスマートフォンで行う手続きが増えているので、一人暮らしの人にとってはやはり難しいようです。その点も地域で支援できれば利用者にとって安心だと思います。

**市長** デジタル化が進む中で高齢者に対



して、そのような支援も必要です。

**仲川** 介護予防が大切だと注目される前から東松山市では「ハッピー体操」の取組を継続して行い、介護予防を進めていることはすばらしいことだと思います。また、身体を動かすことは高齢者だけでなく、若い人たちにとっても大切なことです。東松山市は日本スリーデーマーチもあるため、歩くことを身近に感じている人も多いと思います。ぜひ「歩く」ということをテーマに市全体で健康づくりに取り組んでほしいです。

**市長** 歩くことは認知症予防にもつながるようです。まさにウォーキングを基本とした健康づくりにこれからも取り組んでいきます。

**吉田** 私も介護予防の取組に注目しています。スマイルウォーキング(※)も行っていて、参加者の中には以前介護予防のサービスを受けていた人もいたのですが、完歩できて良かったと笑顔で話してくれました。介護認定を受けている人が市のイベントへの参加を目標に掲げ、前向きに健康づくりに取り組んでくれたらうれしいです。

**市長** 皆さんの話を聞いて改めて介護予防の大切さを実感しました。「心のこもった地域福祉プロジェクト2020」を通して、介護予防はこれからも事業として進めていきます。

※サポーターと共に適度な距離をゆつくり歩く介護予防を目的としたウォーキング事業

です。

**吉田** 相手が困っていることを一緒に考えていると、私まで落ち込んでしまう時もありますが、職場には専門的な職種の職員がいるので、その職員から意見や助言をもらいながら、より良い支援はないか日々考えています。

**市長** 相手の悩みを聞いて、落ち込んでしまうことがあることはよく分かります。そんな時に、身近に頼りになる職員がいて良かったですね。

### 将来の夢や目標

**市長** 将来の夢や目標はありますか。

**吉田** 高齢者の皆さんに自分の名前を覚えてもらうことをまずは目標にしています。センターには開設から10年以上勤めているベテランの職員もいて、地域のイベントに参加した際は、顔なじみの関係だからこそ気軽に相談を受けています。その様子を見て、地域に出てつながりを作ることの重要性を実感しました。何でも気軽に相談できる場所として、高齢者に信頼してもらえるような地域包括支援センターづくりをしていきたいと考えています。そのためにも、医療に関する相談を受けられるように勉強もしていきたいです。

**市長** 私の知り合いにわかばの丘地域包括支援センターを利用している方がいますが、とても行き届いたケアで優しい職員ばかりだと聞いています。

### 将来に向けた思い

**市長** 最後に皆さんの将来に向けた思いを聞かせてください。

**仲川** 東松山市は介護サービスが充実していて、人とのつながりがある「温かいまち」になってほしいので、少しでも力添えをしていきたいです。

**吉田** 介護の仕事は大変という印象があるのか、若手の人材が少ないと思います。高齢者やその家族と関



わる中で「ありがとう」という言葉をもらえるとうれしいし、とてもやりがいがあるので、介護を担う若手の人材が増えてほしいです。

**高橋** 市内には頼りになる医療・介護の専門の人が大勢いて、心強い環境があります。私もその一員として今後も地域に携わっていききたいです。そして、子どもから高齢者まで誰もが安心して医療や介護を受けられる東松山市になればいいと思います。

**市長** 今日お聞きした皆さんの仕事に対するやりがいや喜びを市民

にも伝えたいと思います。皆さんもご自身の健康のためにウォーキングで健康づくりに励んでください。これからも元気にそれぞれの役割を担ってほしいと思います。市としても全力で応援していきますので、連携して地域福祉に取り組んでいきましょう。今日は皆さんの福祉にかける貴重なお話をありがとうございました。

**高橋・吉田・仲川** ありがとうございます。

**市長** 連携は本当に大切で、まさに包括ケアですね。

**高橋** シャローム病院は緩和ケアを行っているので、ガン末期の患者さんからケアマネジャーを依頼されることが多く、これからも多くの患者さんと関わり続けたいです。

**市長** 介護を含めターミナルケアは今後、大切な仕事になりますね。



※撮影時のみマスクを外しています。